

平成29年度あんしんケアセンター事業計画

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(主なもの)
中央区 高齢者人口 46,220人 高齢化率 22.65%	新千葉	9,296人	24.62%	<ul style="list-style-type: none"> 地域づくりの必要性や具体的な支援体制づくりに対する住民の理解や意識の差があり、担い手確保も含めた地域活動や資源の創出に地域差がある。 既存の活動や地域に向向いての活動提案、地域課題や情報の共有による地域コミュニティの形成が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の活動や地域諸団体及び生活支援コーディネーター等も交えた定期的な意見交換、情報共有の機会を継続し、地域課題と必要な資源、予防的な地域の関わりについて理解を深め、具体的な取り組み方法の提案や活動の後方支援を行う。 介護予防・日常生活支援事業への移行に伴い、適宜適切に丁寧な説明を行うと共に、高齢者自身も活動担い手として地域に参加できるよう自治会や社協地区部会等との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象者も含む、地域住民に向けた勉強会を開催（担当圏域内、各中学校地区を目安に年1回）し、介護予防への取り組みや地域コミュニティの形成を働きかけ、活動機会の増進を促す。【重点】 地域課題をテーマとした地域ケア会議を開催（担当圏域内、年2回）し、地域住民との意見交換の場を確保することにより、地域特性に即したかたちの高齢者を見守る体制作りに繋げる。【新規】
	中央	8,102人	18.92%	<ul style="list-style-type: none"> 担当圏域内の町丁が多く、それぞれの町丁で地域課題や地域特性、ニーズが異なる。地域課題やニーズが異なることから中学校区単位での活動が難しい地域もあり、新宿地区部会は新宿地区部会、千葉みなと地区部会に分割が行われる。あんしんケアセンターとしてこれまでの活動を通じて把握した地域課題、地域特性・ニーズについて地域住民や関係機関と共有し、その解決のための話し合いが行われるように働きかけていく必要がある。 長洲地区では、住民同士の支え合い活動をすすめるため、普及啓発活動に取り組むことが課題となっている。 新しいマンションが立ち並ぶエリアには自治会が無いマンションもあり、高齢者は住んでいるものの実態がなかなか把握できない 	<ul style="list-style-type: none"> 三職種がこれまでの活動の中から把握した地域課題、地域特性、地域ニーズを統合し、地域の特性やニーズに合った支援を展開していく。 センターが把握している地域課題を地域ケア会議の他にも既存の会議を活用して地域住民や関係機関と共有し、課題解決のための会議の開催や連携強化に努める。 住民同士の支え合い活動に関心の薄い地区に対し、介護予防や支え合い活動の大切さについて普及啓発活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降に新たに千葉みなと地区部会が組織されることとなっているため、その活動支援を通じて新しい地区のニーズや課題について把握していく。【重点】
	千葉寺	7,148人	22.56%	<ul style="list-style-type: none"> 子世代の流出や集合住宅の増加により、互助関係が縮小し、独居高齢者や高齢者世帯が孤立しつつある。そのため介護が必要な状態になっても気づかれずまま重度化しやすい。 各地区には自治会館等の施設はあるが、自治会・老人会の加入者や役員のみが少なく、活動が減少している。 住民の認知症に対する関心は高まっているが、地域の課題として捉えられていないため支援に結びつけることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と連携し、実態把握を進め、早期に適切な支援に繋ぐとともに、継続的な支援体制を整える。 生活支援コーディネーターと協働し、ネットワークの構築と活動支援及び人材育成を行う。 地域の住民や企業・商店等に、認知症の人の見守り等の支援について働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協や民児協、自治会等と総合相談内容や実態把握から抽出された地域課題を共有・潜在化したニーズの発見のための地域ケア会議を開催する。【重点】
	松ヶ丘	15,609人	23.29%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者人口の増大に伴って独居及び高齢者世帯も増加している。老々介護や認知介護、経済的困窮、精神障害が原因となって日常生活に支障を及ぼす相談が増加している。 地域の見守り体制も整いつつあるが、閉じこもりの問題や社会的交流が必要だと思われる相談もあり、今後は関係機関と連携し、地域のネットワークづくりに重点を置いた支援が必要だと思われる。 	<p>地域包括ケアシステムの構築を目指し、関係機関との連携・協働を更にすすめていく。高齢者一人一人が地域の中で安心して暮らせる街づくりを目指す。また、圏域変更に伴い、広域圏域となるが住民の方の利便性を考慮し、松ヶ丘センター、白旗出張所、ともに同じ業務を担い、地域の相談窓口としての機能を果たせるよう連携していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支援困難事例に関しては、地域ケア会議を活用し、多様な機関や職種と連携し、多方面から支援していく。【重点】 生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、住民主体のサービス活用と情報の発信を進めていく。【重点】 センターや近隣施設を利用しながらミニ講座や、体操教室を行い、ネットワークづくりや交流の場の提案、提供を行っていく。【重点】
	浜野	6,065人	25.37%	<p>この圏域は、緑区に隣接する山側と市原市に隣接する海側に分けられるが、どちらの圏域にも入院できる病院や医療機関、大型スーパーといった生活に密着した施設が少ないことが課題となっている。特に山側については、JR浜野駅までが遠いため、車を運転しなくなった高齢者は公共交通機関であるバスでの移動となるが、利用者が減っていることから本数が減少傾向にあり、日常的な移動にも不便になってきている。もともと農業を主産業としていた地域のため、国民年金受給のみの低所得者や高齢者世帯も多く、サービス利用に関しても閉鎖的である。海側である浜野駅周辺では、マンションや分譲住宅が増えており、人口も増加しているが、自治会加入率が50%程度となっており、今後の町内活動に課題がある。また、町内自治会館はあるものの町内が広すぎて、身近に集まれる場所が少ないことも課題である。東日本大震災以降、地域全体で防災活動には積極的で、年1回生浜地区全体の防災訓練を実施しているが、避難行動要援護者の避難誘導に課題を感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が住みなれた地域でできる限り元気で生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、介護・予防・医療・住まい及び生活支援サービスを継続して提供していけるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。 新たに浜野駅前に事業所を開設しての事業運営となるため、まずは地域の方にセンターの場所を覚えていただけるように、周知活動を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新事務所のPRとあんしんケアセンターの広報活動を兼ねて、民生委員や地区社協、地域住民に向けて「あんしんケアセンター活用術講座」を実施し、地域になくってはならない存在としての周知を図る。【新規】 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」の必要性について、地域の理解を求めめるために、認知症徘徊模擬訓練の実行に向けて、協議を重ねる。【重点】 圏域内において個別地域ケア会議を定期開催していく。【重点】
花見川区 高齢者人口 47,033人 高齢化率 26.52%	こてはし台	6,530人	34.48%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率が高い地域であり、単身や高齢世帯の割合も多い。また地域の自治会や民生委員等の支援者側も高齢化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や町内会、老人会、ボランティア、社会福祉協議会等との連携を図りながら、あんしんケアセンターの周知活動やサロン等の立ち上げや活動支援が十分に行き届いていない地域で重点的に活動していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地域ケア会議を開催し、地域の課題の分析等を行い、地域住民が解決に向けて主体的に話し合いが出来るよう支援していく。【重点】 自治会、老人会等と連携し、周知活動やサロン等の立ち上げや活動支援を行い、新たな通いの場を模索していく。【重点】
	花見川	11,987人	35.08%	<ul style="list-style-type: none"> 認知症や精神疾患の疑いが起因での居住トラブルや経済的な問題を抱えた独居、また、世帯構成員そのものが絡む複雑な課題を抱えた世帯の増加がみられる。 課題の混在している相談内容が多く、他者の介入を拒み、孤立化に向かう世帯が目立ち始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある暮らしができるよう、地域ニーズや実態把握に結びつくネットワークの維持拡大を図り、センターの機能を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関や地域関係者等との顔つなぎを積極的に実施し、地域資源の情報収集やそれぞれ地域の課題等特性を共有する。【重点】 困難ケース等に際しては、地域ケア会議を必要に応じ開催し、幅広い多様な機関や多職種による多方面からの検討が図れるようにする。【重点】
	さつきが丘	6,705人	30.82%	<ul style="list-style-type: none"> 圏域全体の高齢化率が30%以上で、特に高齢化率の高い宮野木台3丁目では44%となっている。 さつきが丘はエレベーターのない5階建て集合住宅が立ち並び、檜橋町には住宅が点在しており、千種町は工業地域である等、現段階で把握している地域特性に加えて、圏域内各町丁の詳細な特性を把握して地域課題を明確にしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存センターから引継いだ活動内容を滞りなく実施し、地域住民や関係団体へセンターの周知を図り、地域諸団体・関係機関との顔が見える関係を構築する。 地区特性や課題の共有を目的とした地域ケア会議を開催し、地域包括ケアシステム構築に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域諸団体や関係機関の連絡会や催しへ参加し、センターの周知を図って顔が見える関係を構築し、相互の役割理解を深めながら、日常的な連携を行い、地域の高齢者の実態把握の協力も仰ぐ【重点】 生活支援コーディネーターと連携しながら、地域の社会資源の活動内容の把握や掘り起こしを行い、個々の状況に応じた効果的な利用に繋げる。【重点】
	にれの木台	5,597人	31.00%	<p>担当圏域は、東関東自動車と花見川河川に挟まれた東西に広い地域で、URの中高層住宅地域である「にれの木台団地」や「西小中台団地」には人口が集中し、朝日ヶ丘と西小中台の地区で圏域の約60%の人口を占め、高齢化率も31%と高い。また、圏域の半分の面積を有する畑町は、古くからの集落と新興の戸建て住宅が多い低層部と広範な農村部となっている。圏域の課題としては、一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯等も多く見受けられ、閉じこもりも目立つことから、地域に埋もれている支援を必要とする高齢者に対して、様々な情報からアウトリーチするとともに、自治会、老人会並びにUR都市機構との連携等、地域の関係組織との協働した支援体制を構築していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前担当法人からの引継ぎを適正に実施するとともに、自治会並びに関係団体等と積極的に接触を図り、圏域内の実態把握による的確な支援体制を早急に確立する。 医療・介護等の関係機関のほか、民生委員、社協地区支部、自治会及び市の関係組織と連携し、地域包括ケアネットワークの構築を積極的に推進する。 地域ケア会議や事例検討会等を通じて、地域の課題を的確に把握するとともに、地域住民と共に課題解決に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 新設のあんしんケアセンターであることから、町内自治会への通知や区役所等の公的機関へのポスター掲示等、地域住民への周知を図る。【重点】 圏域内のケアマネジャーを対象とした勉強会（ケアマネ会議）を定期的で開催し、困難ケースに対する検討や意見交換等により資質向上を図る。【重点】 自主的な介護予防の取組みに向けて、ボランティアの参加・協力・育成による地域活動のリーダー育成に努めるとともに、活動拠点づくりを推進する。【重点】
	花園	6,943人	21.30%	<ul style="list-style-type: none"> JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的、交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅街が多い。駅の南側は昔からの住民も多く高齢化率も30%を超えている地域もある。毎月の新規の相談件数も40件〜50件と多く、相談内容も経済的な問題や権利擁護等の複合的な問題が多い。 新しく引き継いだ地域（南花園・検見川町）の実態把握とネットワーク構築が出来ていない。 総合事業の開始に併せ、セルフケアマネジメントの手法を普及していくことが課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく引き継いだ地域（南花園・検見川町）にも頼りにされるセンターとして、より一層、相談支援活動や顔が見える地域づくりに取り組みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会等の既存組織へ働きかけ、介護予防の取り組みを浸透させ、「おしゃべり昼食会」、「元気で長生きしよう会」等でセルフマネジメントの手法を普及する。【重点】
暮張	9,271人	17.75%	<ul style="list-style-type: none"> 昭和40年代〜50年代に構築されたマンション群があり建築当初に入居された方々は高齢者年齢を迎える方が多い。独居高齢者や高齢者世帯、単身で未就労の子供と高齢者の世帯が増加し経済的な問題や認知症介護の問題等複合的な課題を抱えた相談が増加している。 自治会や老人会の他小集団での自主的なグループが活動しているが、参加者の高齢化と運営や企画の役割分担・引継ぎが円滑に進んでいない集団もあり活動を継続していく事が難しくなっている集団もでてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア実現を目指し地域の住民組織や多機関・多職種との連携を強化し顔が見える関係での繋がりを広げ様々なネットワークの構築を進める。その為にも圏域内での地域ケア会議を開催し地域課題の分析をおこない地域住民の自主活動支援を常に意識して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談で対応した困難ケースにおいて地域ケア会議を開催し、ケース検討を通じたネットワークの構築や強化により、課題に対応できる体制を作る。また、総合相談を分析し、具体的なアプローチ方法を検討する。【重点】 	

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(主なもの)
稲毛区 高齢者人口 39,224人 高齢化率 24.85%	山王	13,836人	28.08%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率が急速に上昇している。集合住宅地区では地域におけるネットワークが機能しているが、高齢化が進んでいる。一戸建て地区においてはサービスの利用に結びついておらず、地域との関わりが薄く、問題を抱えたまま生活している高齢者がまだまだ潜在していると思われる。地域住民や行政機関などとも連携を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議などを活用し、地域住民や行政、医療機関等との連携・ネットワーク作りを進めていく。 圏域が広がるため本センターと出張所が連携し、高齢者が地域で安心して生活していけるよう、地域包括ケアシステムの推進に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業の開始に伴い、生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供を行う。【重点】 サロンや介護予防を目的とした体操教室等の地域住民主体の通いの場作りを支援する。【重点】
	園生	6,310人	25.42%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率30%超えのエレベーターの無い団地がある。高齢者世帯及び独居高齢者も多く、なかには生活困窮世帯も多くみられる。 支援する方たちも高齢になってきている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民へ新しいあんしんケアセンターの周知活動を行っていくとともに、自治会、民生委員、地区社協と連携し、地域課題の把握に努めていく。 地域課題に対して解決を図るだけでなく、要介護状態にならないようセルフケアマネジメントの手法の普及啓発や体操教室を開催していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座(年4回以上)を開催するとともに、困難ケース等は認知症初期集中支援チームに協力を頂き、適切に支援を行い、認知症になっても安心して暮らせる街を目指していく。【重点】 社会福祉協議会等と連携を図りながら、介護予防教室やサロン等の把握や活動支援に努めるとともに、生活支援コーディネーターと協力をしながら、地域資源の把握、発掘を行っていく。【重点】
	天台	5,326人	28.75%	<ul style="list-style-type: none"> 大型団地の高齢化(41%)率が高く、独居率も高い。エレベーターがないため、閉じこもりや買物・受診が困難である高齢者の相談がある。住民は高齢者の孤独死や衰弱を問題視しており、地域づくりが喫緊の課題である。 地域の見守り体制やサロン活動・自主活動が活発な地区と、高齢化が進み体制づくりまでいかない地区がある。 認知症、精神疾患や生活困窮者等世帯で問題を抱えている世帯が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関や介護事業所のマップを作成し、医療・介護の連携を図り地域包括ケアシステムの構築を地区単位で行う。 身近なところで、高齢者が集い、介護予防を目的とした活動を継続的におこなう環境整備をする。 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症カフェや認知症サポーター養成講座等、全世代に対し認知症の理解を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業の開始に伴い、介護予防手帳の活用方法を高齢者や事業対象者に解りやすく説明し、自立に向けた意思を引き出し継続するよう支援する。【新規】 地域の医療機関と介護事業所の資源マップの作成や既存の地域医療連携バス等の情報共有ツールを整備し、介護支援専門員が連携しやすいよう情報提供を行う。【新規】
	小仲台	7,324人	21.91%	戸建地域全体で住民間のつながりが図れている自治会組織と高層の団地やマンションの中で階段や棟ごと等環境を活用した住民のつながりを作っている自治会組織においては、居住地の環境を理解しその中で必要な活動が住民間合意で活発に行われている。しかし、地域での活動の中心的な担い手が高齢化しているのが現状である。他方で、自治組織のない戸建てやマンションにおいては、組織づくりを働きかける糸口がほとんどない状況である。	新センターの案内を含め、あんしんケアセンターの周知活動を行う。また、活動活発な組織へ定期的に参加し、若い世代との交流を図り地域課題を共に考えるきっかけとしたり、住み慣れた地域で住み続けられるように住民主体の活動を組織化できるよう働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や自治会、地区部会等と、サロンや小仲台便りの自治会配布、「地域の困った会議」開催等を通し地域の相談窓口として周知させる。【重点】
	稲毛	6,428人	20.22%	高齢者人口が約6,000人を超え高齢化率約20%となり、大型住宅街やマンションに団塊世代が多く居住している地域で、今後急速に高齢化が進む地域。それに伴い認知症の相談も増加してきているが、認知症の普及啓発が進んでいない現状があり、高齢者を取り巻く様々な問題が起る恐れがある。また地域において他者と交流が持てる場が少ないため、高齢者の孤立化も増加傾向にある。認知症の対策や高齢者の孤立化を防止するための対策が必要となってきている。	介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴い、第1号介護予防支援事業の周知や質の向上を目指す。高齢化が急速に進む地域であるため、認知症の増加が見込まれることから、認知症対策の取組みを強化していく。また介護保険の改正が介護予防事業の大きな転機となるため、地域の特性・地域単位での介護予防を普及啓発していく。地域包括ケアシステムの構築のために、地域の関係機関との連携体制を強化していく。	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の中でも、町単位での地域ケア会議を開催し、ネットワークの構築(顔の見える関係づくり)を図り、集いの場を広げ自主化活動へと繋げていく。【重点】 認知症の方の増加に対応できるよう、自治会や民生委員と連携し、徘徊声かけ訓練や認知症カフェの普及に努める。【新規】
若葉区 高齢者人口 44,305人 高齢化率 29.45%	みつわ台	7,175人	23.41%	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の数が多く地域が細分化されている。自治会活動をする場所が少なく、自治会活動に支障をきたしている。 昔から住んでいる居住者と新興住宅が混在している。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業の開始に伴い、住民主体の多様なサービスを支援の対象とするとともに、NPO、ボランティア等によるサービス資源の開発を支援する。 地域ケア会議等で地域の課題を抽出し、課題解決の為に地域の支え合い活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を開催して、地域の課題を抽出し、その解決の為に地域の支え合いの会の発足につながるよう支援する。【重点】
	都賀	9,089人	26.85%	<ul style="list-style-type: none"> 担当圏域の高齢化率は約27%となっているが、駅周辺など高齢者率20%台の地区もある一方45～50%と高い地区が混在している状況である。 認知症、精神疾患、独居世帯、高齢者世帯等、複合的問題を抱えているケースもみられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の方に新しいあんしんケアセンターを周知するとともに、総合事業や介護予防の周知徹底を図る。 新センターとして、圏域の特色や課題等の実態把握を行う。 既存のあんしんケアセンターから引き継いだ地域ケア会議を継続的に開催し、ネットワークの構築を図る 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と触れ合う機会を多く持ち、民生委員、自治会、地区社協等の関係機関との積極的に連携を図る。また、地域行事や会議など積極的に参加する。【重点】 様々な機会を捉えて地域に積極的に出向き、あんしんケアセンターの周知を図る。【重点】 総合相談や地域ケア会議を通して、圏域内の実態把握を行う。
	桜木	8,005人	25.31%	圏域は、公営住宅も一部あるが、全体的には戸建ての住宅街である。町丁毎の高齢化率をみると18.51%～34.76%と差はあるが、若葉区の中で比較的低い地域が多い。地域住民の地域福祉に関する意識は比較的高いが、社会福祉協議会地区部会との連携には差がある。身寄りのいない一人暮らしの高齢者や介護者に精神疾患等問題がある等複合的な問題を抱えているケースが多い。	社会福祉協議会地区部会の会議、民生委員の会議等に参加し連携を図る。今年度の圏域変更に伴い若葉区全体の活動の取り組みと共に法人理念に基づいた当センターならではの地域に密着した活動を展開する。特に29年度は地域包括ケアシステムの構築に向け、多職種連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> 個別レベルの地域ケア会議を積極的に開催する。また、担当圏域が変更になるため、担当圏域、社協地区部会毎の地域ケア会議を開催する。(年3回)【重点】 担当圏域独自の多職種連携会議を開催する。(年1回)【新規】
	千城台	12,225人	33.31%	担当圏域の総人口は減少傾向にあるが、高齢者人口、高齢化率ともに増加している。その中でも単身や夫婦のみの高齢者で地域との関係性が希薄化した世帯が多く、世帯の課題が潜在化しにくく、また、課題が表面化した場合は重度化、複合化している事も多く、地域におけるインフォーマルな社会資源も含めた関係機関での見守り体制の構築が課題となっている。	センターにおける地域高齢者の情報収集や、関係機関との連携を推進することにより、地域内の課題を把握、課題解決に向けて関係機関と協働を行いながら、地域包括ケアシステムの構築とその必要性・重要性を地域住民の方々や関係機関への啓蒙活動等を通じて推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の地域ケア会議開催に向け、民生委員定例会、社協サロンへの参加等基盤作りを継続して行う。【重点】 地域住民や関係機関への成年後見制度や日常生活自立支援事業等の普及啓発活動として、簡易リーフレットの作成、配布や勉強会の開催。(年1回以上)【重点】 圏域内における「歩いて行ける通いの場」の新たな立ち上げ支援のために、自治会担当者等との連絡や連携。【新規】
	大宮台	7,811人	44.27%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化率40%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方が増えている。 圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。 集落が点在している地域特性があり、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。 大宮町・新宮田地域はシニアリーダー体操の自主サークル化の機運が高まっており、開始に向けた支援が必要となっている。 	各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 適切なアセスメントを実施し、個々のニーズに合った活動につなげる。【重点】 シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークル、大宮地区の「あやめ会」、白井地区の「シニア体操白井」を支援する。【重点】 新たに大宮町と新宮田地域で自主サークルを立ち上げる。【新規】

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	地区課題	活動方針	具体的な取組み(主なもの)
緑区 高齢者人口 26,490人 高齢化率 20.72%	鎌取	8,817人	14.59%	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性は鎌取駅を中心とした繁華街、住宅街、古くからの農村地帯、昭和50年から60年代に建設された公営住宅5か所など多岐に渡る。 高齢化率は千葉市内で最も低く14.8%だが、高齢者人口は8900と多く、市内では11番目である。呼び寄せ高齢者が多く、今後も増加の傾向にある。(平成28年12月時点) 独居高齢者、高齢者世帯、地域との関係が希薄化した世帯の増加のより、サービスの導入が遅くなり状態の悪化や、重篤化する恐れがある。 家族介護や地域の連帯感の意識はバラつきがある。地域における見守りや支援体制にも地域によって、差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域の人口は約6万人と非常に多いため、より詳細に各地区の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。手段として地域課題に応じた地域ケア会議を開催する。 後期高齢者の割合は6%と低いため、要介護状態に陥らないよう外出の場やサロン、体操教室等をアプローチするほか、健康への関心を高めていく。 認知症サポーターの養成を進めて、地域全体で認知症に対する理解を深める。権利侵害を予防するため、成年後見制度の啓発活動も行っていく。 地域ケア会議の開催を通して、新たなネットワークの形成やケアマネジャーの後方支援、自立支援に資するケアマネジメントの実践を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業対象者に介護予防を意識付け、自主的に「参加」「活動」できるよう関わっていく。制度の移行や対象者の状態変化時にも、一連の支援が継ぎ目なく継続されるように努める。【新規】 3職種がみかんの会(※)に参加し、活動する。認知症サポーター養成講座を学校、各種団体等に向け開催する。【重点】 ※「みかんの会」…千葉市内のあんしんケアセンターや認知症疾患医療センター、行政機関に配置されている認知症地域推進員及び認知症コーディネーターの有志で組織され、認知症ケアパス作成等の活動を行っている。
	誉田	5,991人	27.29%	<ul style="list-style-type: none"> 圏域は誉田中学校区と同一の4町で構成され、緑区中心部から離れていて行政の窓口(出張所含め)が遠い。 駅周辺を除くと、交通の便が悪く、元気な高齢者であっても外出しにくい状況になっている。 社協や町内会の活動は続いているが、新しい活動やNPOが育ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外出支援や住民の自主活動の立ちあげ等の課題解決に向けて、包括的な支援を行う。 介護予防の啓発や活動支援を行い、自立した生活が維持できるような環境を作り出す。 より多重的・多面的な支援を提供できるよう、連携機関を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業の利用対象者に対して、その人らしい暮らし、活動ができるように、介護予防支援、インフォーマル支援を活用し、マネジメントする。【新規】 圏域内の多様なニーズの解決に向けて、誉田あんしんネットワーク会議や地域ケア会議で課題解決と関係機関のネットワークを強化する。【重点】
	土気	11,682人	25.67%	<ul style="list-style-type: none"> 一部の地区は近年宅地開発され、子育て世代が移り住み、高齢化率が10%に満たない地区もあるが、圏域内の多くの地区で高齢化が進行し、高齢化率が45%を超える地区が複数ある。 一人暮らしまたは高齢者のみの世帯も増加し、空き家も目立ってきている。孤独死の事例や老々介護をしている世帯も多く、介護保険や認知症に関する相談件数も増加をしている。また、支援が必要な高齢者の同居家族が精神障害や疾病等を抱えていたり、経済的に困窮していたり重複した課題を抱える世帯の相談も増加している。世帯全体を支援していく体制の整備や地域で高齢者等の見守りや互いに助け合える地域づくりが必要となっている。 圏域内に入院可能な医療機関が1か所しかなく、総合病院ではない為、他区や市外の医療機関へ入院や通院をしなければならない状況にある。圏域全体に交通手段の利便性が悪く、通院や買い物等移動に困っている高齢者が多い。 	医療・介護関係機関や保健福祉センター等の行政機関、地域の活動団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築、推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 認知症状等で受診や必要な支援につながっていないケースについて認知症初期集中支援チームと連携し、医療や必要な支援に繋げる。【重点】 圏域単位での多職種連携会議開催に向け準備を行う。【新規】 民生委員、区社協、社協地区部会、生活支援コーディネーター、介護支援専門員等と地区分析を行い、マップ等で可視化し、地域課題共有と資源開発に向け取り組む。【新規】 地域の防災訓練等へ参加し、関係者との関係づくり及び災害時の対応や非常時の体制について学ぶ。【新規】
美浜区 高齢者人口 36,546人 高齢化率 24.64%	真砂	7,460人	30.23%	<ul style="list-style-type: none"> 独居・高齢者世帯が多く、その中でも新しく転入する人(呼び寄せ高齢者・外国人等も含む)が増えてきており、近隣との交流が希薄なため問題が潜在化しやすい。 エレベーターのない高層住宅が多数あり、外出が困難となり高齢者の閉じこもりが問題となっている。 圏域に医療機関及び介護サービス事業所が少ないため、在宅医療や自立支援に向けた社会資源の選択に懸念がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な高齢者の早期発見に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援につなげる。 地域包括ケアシステムの推進に向けて、新たな社会資源の発掘や地域の関係機関や関係団体とのネットワーク構築を図る。 総合事業の利用対象者に対し、適切なサービスが効果的に提供されるよう必要な援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストを活用し、介護予防事業や住民主体のサービスやインフォーマルサービス等、個々のニーズに合わせたサービスを提案し利用に繋げる。【重点】 行政、生活支援コーディネーター・社会福祉協議会等と連携し住民主体の活動の場やインフォーマルサービスについての情報収集を行いネットワークを構築し、高齢者が地域活動に参加できるよう情報を提供する。【重点】 市や関係機関が開催する総合事業に関する研修会に参加し、制度への理解を深めると共に、地域住民や介護支援専門員、サービス事業所へ勉強会などを通じて情報提供、周知を行う。【重点】
	磯辺	11,688人	20.55%	<ul style="list-style-type: none"> 地区により高齢化率や地域特性に大きな差がある。高齢化率の高い地区にはエレベーターのない中層団地が多く外出困難となってくる。 圏域内には医療機関、介護事業所などの社会資源や高齢者が歩いて行ける範囲の商店や通いの場が少ない。 総合事業の開始に伴い、適切なサービス提供に向けたプランを立案できるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの構築へ向け、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会等との連携を深め協働して取り組む。 関係機関との連携を取りながら地域で住民主体となれる活動の促進や住民主体等の多様なサービス資源が地域で増えるよう働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の居宅介護支援事業所へ計画的に訪問し、介護支援専門員個々の状況把握と支援を実施。【重点】 地域の支え合いや見守りの団体と介護支援専門員との交流、合同の研修の実施。【新規】
	高洲	11,787人	25.42%	<ul style="list-style-type: none"> 地域における高齢者像を大別した場合、以下の4つに分けられる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 当地において以前より暮らし、既存のコミュニティーをもっている方。 2. 他県、他地域より新たな環境を求めて転入された健康面・経済面に恵まれた方。 3. 同じく他県より転入されたが身寄りが無くコミュニケーションツールもない、引きこもりがちな方。 4. 高齢者世帯、同居者も疾患等抱える世帯の方。(近年増加しており、支援が困難なケースが多い。) センターとしては、引き続き、特に3、4に該当される方々の状況把握と課題解決に向け、積極的関与を行う。 認知症高齢者、身寄りのない住民からの相談が増えている。また、外国人高齢者の相談が増えていくことが今後の課題と考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 住民が住み慣れた地域で安心した生活が過ごせるように積極的に関与していく。 総合事業開始にあたり、地域の社会資源の把握に努め対象者に適切なケアマネジメントを行っていく。 地域で起こる問題に対してワンストップ窓口となれるように引き続き努める。 住民に対して所在を明確化し、行政の担当部署に対し積極的関与を促すための連携を図っていく。 各種会議への参加、開催により他機関との連携強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター、シニアリーダー、NPO法人、UR都市機構等区内関係機関と協議・連携を図り、地域の特性に対応した事業の開発・実施に向けて支援していく。(団地のコミュニティスペース等を活用した、住民活動拠点作り及び見守りネットワークの構築)【新規】 シニアリーダー体操等の活動が出来る場所の確保に向け働きかけ、地域の予防の場を増やしていく。【新規】
	幸町	5,611人	27.50%	<ul style="list-style-type: none"> 高齢独居世帯の孤立化や孤独死の問題、消費者被害、賃貸住宅の退去、認知症、アルコール依存症、精神疾患、障害等、権利擁護の絡む複合的な問題にも取り組む必要性がある。 若年層支援の必要性も多く、ネットワークの構築が必要。 エレベーターのない5階建ての団地では、上層階に住む高齢者の外出問題もある。 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉市あんしんケアセンターの運営方針に基づき、市と連携を図りながら地域包括ケアシステムの構築、強化に取り組む。 精神疾患や認知症などの疾患を抱えていたり、外部との接触を拒否する住民の存在に対し、状況把握と課題解決に向け取り組んでいく。 既存のネットワークと連携を図り、高齢者の外出の場づくり、見守り、声かけを実施する。 今後急増すると予測される高齢独居世帯などに対して、健康教室や勉強会などへの参加を促し、また、予防的な視点での関わりを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に向けて、高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止、エンディングノートや遺言等の講座を開催する。【新規】 幸町2丁目高齢者等見守りネットワーク会議を継続的に開催。2丁目全戸アンケートの結果を分析し、住民のニーズを把握。今後の地域活動に繋げる。【重点】 地域に認知症サポーターのPRを行い、知名度を高める。サポーターの活動支援を行う。徘徊模擬訓練等、地域の認知症対応力の向上を図る。【重点】 区健康課と協働し、いきいき体操の普及を行う。【重点】

※高齢者人口及び高齢化率は平成28年9月30日現在